

令和6年度オール東京62 第2回環境担当研修会

事例報告

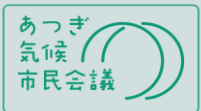
あつぎ気候市民会議



カーボンニュートラル
あつぎ未来プロジェクトへ

2024年7月23日

あつぎ気候市民会議実行委員会
一社) あつぎ市民発電所 遠藤睦子



一般社団法人あつぎ市民発電所

気候危機を回避し・原発に頼らない社会を目指そう
6年前から活動している市民団体

市民の手で再生可能エネルギーの地産地消や農業の
活性化にチャレンジ

ソーラーシェアリング
…太陽光を農業と発電でシェア

もっと再生エネルギーを増やしたい しかし…



2020年1月 1号機通電式 厚木市飯山



再エネ発電所普及拡大は停滞中・・・ 厚木市でもなかなか脱炭素の進展がみえにくい

2021年2月 市長が「ゼロカーボンシティ宣言」
2022年度の施策 カーボンニュートラルロードマップ策定・
地球温暖化防止対策計画改定（⇒2023年度から実施）

2年半前
2021年末～
2022年

次のステップに踏み出せる起爆剤？ 厚木市で**気候市民会議**をやってみたい

「市民協働提案事業」に応募してみよう

事業目的：厚木市が策定している**CNロードマップ**を実現させるために**気候市民会議**をやろう

2022年5月応募 市の態勢もかなり前向きになり

「市民が作るアクションプランを市が公的なアクションプランとして受け入れる」と約束！
⇒2022年10月 市民協働事業として採択 2023年度の1年間の事業として決まった

気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう！

主催：あつぎ市民発電所&厚木市
 連携：環境政策対話研究所 ※
 協力：IGES, 神奈川県環境科学センター

※ 神奈川県「地域脱炭素化に向けた
 地域版ワークショップ」事業として

資金調達・会計管理

必要経費：600万円程度
 参加市民への謝礼、情報提供者・
 講師への謝金、実行委員会スタッフ
 報酬

市民協働から200万円
 民間助成金 ラッシュジャパンより約
 200万円（2023年2月から 準備
 段階をカバー）
 地球環境基金より
 （上限）250万円
 計650万円



アドバイザー

メインファ
 シリ

会議録
 専任者

行政との関係：市民協働によるメリット

- ・成果物「アクションプラン」を市の公式プランに受け入れる
- ・無作為抽出を担当
- ・事業の信頼性、広報効果などなど
- ・内容は基本的に実行委員会に任せる
- ・行政サイドに市民の本気度を伝える！ いっしょにやろう！
 民主主義の新しい形

託児サービス
 会場確保
 市役所駐車場

参加市民

無作為抽出で3000人 16歳～74歳 男女 10地域
 ⇒ 52人でスタート

実行委員会スタッフ：ほとんど普通の市民

市民（発電所会員、農援隊の仲間たち、市民活動を担う方々・・・）に呼びかけ
 市内外大学に相談・ご協力の呼びかけ 市内企業にも少し呼びかけ
 アドバイザーからのご紹介

2023年1月実行委員会準備会のキックオフMTG

ファシリテーター研修：環境政策対話研究所に主催していただく

2023年4月正式に始動（守秘義務を伴う就任依頼⇒承諾書）44人登録
 統括チーム、運営チーム（事務局）、広報チーム、ファシリテーター、サポーター

参加市民の構成

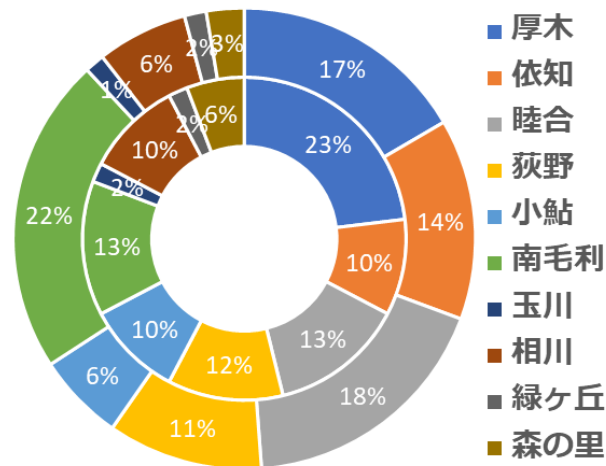
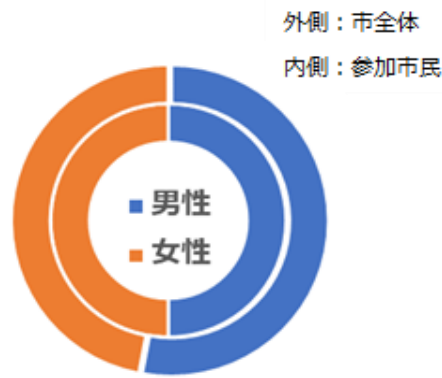
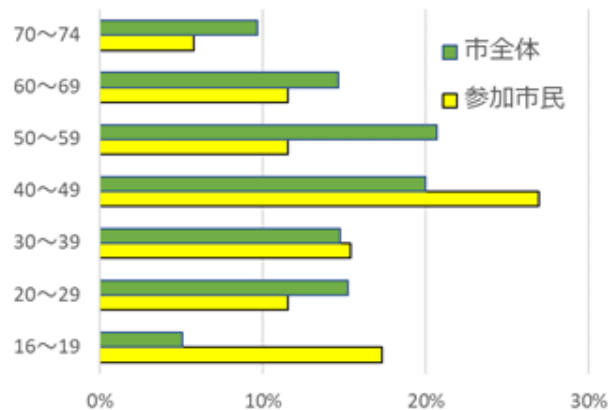
無作為抽出
3001人

返信436人

参加したい80人

縮図になる
52人

4人途中辞退



実行委員会

【統括チーム】 5人

【運営チーム】 6人 + サポーター5人

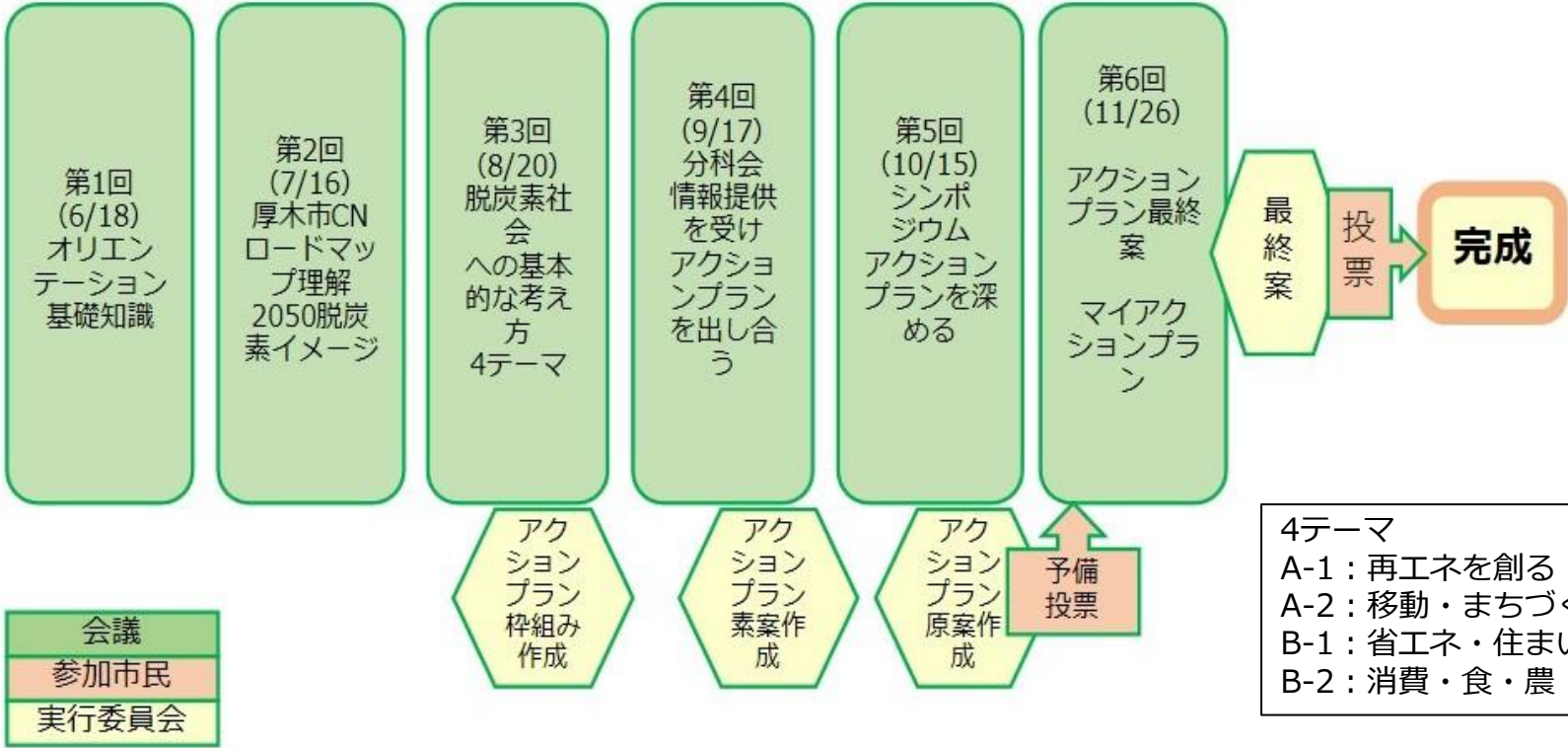
【広報チーム】 5人 + 参加市民イラストレーター1人

【メインファシリテーター】 岩崎茜

【ファシリテーター】 13人 + サポーター6人

【会議記録】 2人

あつぎ気候市民会議の設計



全体アドバイザー

柳下正治氏、村上千里氏、三上直之氏・環境政策対話研
竹井斎氏・脱炭素かわさき市民会議委員長

第1回会議の進め方

6月18日(日)13:00～17:00
参加47名 9グループ
オリエンテーション
基礎知識

◆ 第1回会議のゴール

- ・あつぎ気候市民会議の目的と進め方を理解する
- ・参加者同士知り合う、グループワークに慣れる
- ・気候変動問題、カーボンフットプリントの基礎知識を理解する

◆ プログラム

オリエンテーション
アイスブレイク

専門家レクチャー1：気候変動問題の全体像
江守正多氏（東京大学）

グループワーク：感想・疑問点⇒質疑応答

専門家レクチャー2：わたしたちの暮らしと
温室効果ガス 渡部厚志氏（IGES）

「脱炭素型行動リスト」から
取組みたいもの、取組みたくないものを選ぶ
⇒どんな工夫や仕組みで取り組めるか

発表

専門家からの講評
次回まで：「じぶんごとプラネット」をやってみよう

第2回会議の進め方

7月16日(日)13:00~17:00
参加44名 9グループ
神奈川県・厚木の地域特性
厚木市CNロードマップ
2050年脱炭素社会のイメージ

◆ 第2回会議のゴール

- ・市のロードマップの概略を理解する
- ・2050年のまちの姿をイメージし、脱炭素アクションプランを考えていくベースをつくろう
- ・次回からどんなテーマで議論していこうかを考える

◆ プログラム

アイスブレイク 脱炭素化を急ぐ必要の再認識(動画)
2050年のまちのイメージ描き方

神奈川県(厚木市周辺)における地球温暖化の影響
新井聡史氏

神奈川県気候変動適応センター(神奈川県環境科学センター)

厚木市の地域特性 前場徹氏 厚木市まちづくり計画部

厚木市カーボンニュートラルロードマップ
山崎尚裕氏 厚木市環境政策課

レクチャーへの質問を出し合う⇒質疑応答

脱炭素化した2050年厚木市のイメージを描く

発表

脱炭素市民アクションプランへの議論の進め方 事務局提案(4つのテーマで考える)
市民からの意見は出ず、事務局案で進めることにする

第3回会議の進め方

8月20日(日)13:00~17:00

参加40名 8グループ

脱炭素社会への基本的な考え方

◆ 第3回会議のゴール

- ・脱炭素化への基本的知識や対策を理解し考えを深めよう
- ・脱炭素アクションプランづくりのベースを固め、タネになるアイデアを出そう
- ・次回の分科会を選択しよう

◆ プログラム

前回の振り返りと脱炭素アクションプランづくりの考え方

メインファシリ 各専門家レクチャー前に聞くポイント、後に大事な点の確認

A-1 再エネを創る・地産地消 松原弘直氏
環境エネルギー政策研究所 (ISEP)

A-2 移動・まちづくり 梶田佳孝氏
東海大学建築都市学部

B-1 住まい・省エネ 山本佳嗣氏
東京工芸大学工学部

B-2 消費・食・農・廃棄 村上千里氏
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

興味がある、重要、
アクションプランに取り入れた
いこと～実現への
課題

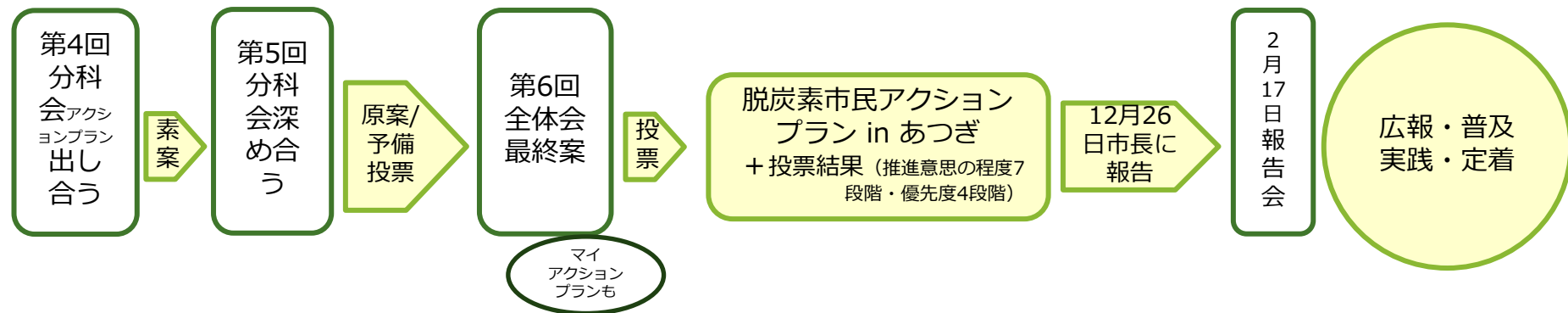
分科会選択について【A、ややA、どちらでも、ややB、B】希望をメールで

【会議終了後実行委員の作業】

分科会希望を元に分科会メンバーを決めて連絡

グループワークで上がったすべての意見・アクションプランのタネをテキスト分析で解析⇒専門家のアドバイス
を得て整理⇒第4回会議向けに「脱炭素市民アクションプラン枠組み（カテゴリーとキーワード）」提示

「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」へのプロセス



作るうえで注意したポイント

- 厚木市CNロードマップの目標数字を達成できる社会の大転換につながるプラン
- 「脱炭素」かつ「豊かで暮らしやすい」未来
- バックキャスティング（未来のイメージに到達するためにさかのぼって考える）
- 公正・公平で、だれ一人取り残さない
- 環境や気候問題に無関心な人も普通に暮らして脱炭素になる仕組みをつくる
- 主語は「市民」、市民が行いたいことを支える必要条件の整備を行政や事業者を求める

第4回会議の進め方

9月17日(日)13:00~17:00
参加40名 A:4G、B:3G
情報提供を受けてアクションプランを出し合う

◆ 第4回会議のゴール

- ・アクションプランを出し合う
- ・カテゴリーの文章化をしよう「私たちは何をどのようにしたいのか」

◆ プログラム

分科会ごとに情報提供を受け、グループ討議でアクションプラン具体化

分科会A	分科会B
市民による再エネづくり：あつぎ市民発電所・遠藤睦子氏	窓の断熱：エコ窓普及促進会・綿田茜氏
エネルギー地産地消・地域新電力：たんたんエナジー株式会社・木原浩貴氏	住まいの省エネを考える：(有)コムアソシエイツ・伊藤敦範氏（地元設計・建築家）
地域エネルギーマネジメントシステム等：小田原市環境部ゼロカーボン推進課・小野貴朗氏	太陽熱・自然エネルギーを利用の家紹介：青砥航次氏（厚木市民）
電気自動車の動向、活用事例：日産自動車株式会社厚木テクニカルセンター・大木俊雄氏	省エネ家電、建物の省エネ：東京工芸大学・山本佳嗣氏
MaaS事業紹介：MONET Technologies株式会社・渡會祥氏	大量消費・大量廃棄を見直すライフスタイル：総合地球環境学研究所・浅利美鈴氏
公共交通：神奈川中央交通株式会社・利光芳明氏	不耕起栽培農業：八一農園・衣川晃氏
専門家/松原弘直氏、梶田佳孝氏、 行政/厚木市まちづくり計画部・吉田清彦氏	専門家/山本佳嗣氏、村上千里氏 行政/厚木市環境事業課・相田征嗣氏

【会議終了後実行委員会の作業】

グループ討議で上がったすべての意見をもとに**アクションプラン素案一覧**を作成し、第5回会議の検討たたき台とする。
「何をどうしたいか」「具体的に取り組みたいこと」「賛同意見・反対意見」「課題」+専門家のアドバイス

第5回会議の進め方

10月15日(日)13:00～
17:00
参加36名 A:4G、B:3G
シンポジウム
アクションプランを深める

- ◆ 第5回会議のゴール
・脱炭素市民アクションプラン原案をつくろう

◆ プログラム

アクションプランづくりの議論に深め方

シンポジウム 普及活動をどのように進めるか アクションプランづくりの視点に

シンポジウム 浅利美鈴氏（総合地球環境学研究所）、二ノ宮リムさち氏（東海大学）、岩崎茜氏（東京大学・サイエンスコミュニケーター）、コーディネーター鈴木秀顕氏（松蔭大学）

アクションプラン素案をもとに、中項目
【何をどうしたいか】リスト確認⇒小項目
【そのために取組むこと】【課題解決
提案】を出し合う
⇒脱炭素アクションプラン原案へ

素案例

大項目 (テーマ)	中項目 (1) 市民は何をどうしたいか	小項目 1) そのために取組むこと	課題解決提案
再エネ地 産地消	太陽光発電の導入	戸建住宅の可能なところ はすべて設置 集合住宅でも活用できる 仕組み整備	市民が自発的に行 うのは難しい 推進するための相 談窓口
住まい・ 省エネ	住まいの断熱による省エ ネと健康促進	新築住宅は高断熱性能、 ZEH 既存住宅の断熱改修	支援する仕組み 事業者の信頼性 コスト等相談窓口

【会議終了後実行委員会の作業】

グループ討議で作られた原案を集約⇒専門家のアドバイスを得ながらすべて文章化した「**原案①**」を作成
→ 分科会メンバーのみの**予備投票**；推進意思とコメント⇒ **修正し「原案②」を第6回会議へ**

第6回会議の進め方

◆ 第6回会議のゴール

- ・脱炭素市民アクションプラン原案の完成
- ・マイアクションプラン発表

◆ プログラム

予備投票結果とアクションプラン原案②の説明 再討議項目の提案

全体会での相互理解
再討議の必要な項目議論
⇒脱炭素アクションプラン最終案へ



事務局：各グループの結果をすり合わせ最終案を作成

各自マイアクションプランを作り、全員発表

全体会 事務局より最終案を提示・質疑⇒投票にかける最終案確定/後日投票【推進意思7段階、優先度4段階】
専門家、ゲストからの講評

【会議終了後実行委員会の作業】

最終案確定版への投票依頼⇒投票結果（推進意思4以下が過半数で除外）⇒「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」
⇒市長に手渡す

アクションプランのイラスト化、あつぎ気候市民会議報告書冊子、パンフレットの編集・作成

2月17日 報告会

11月26日(日)13:00～17:00

参加37名 6グループ

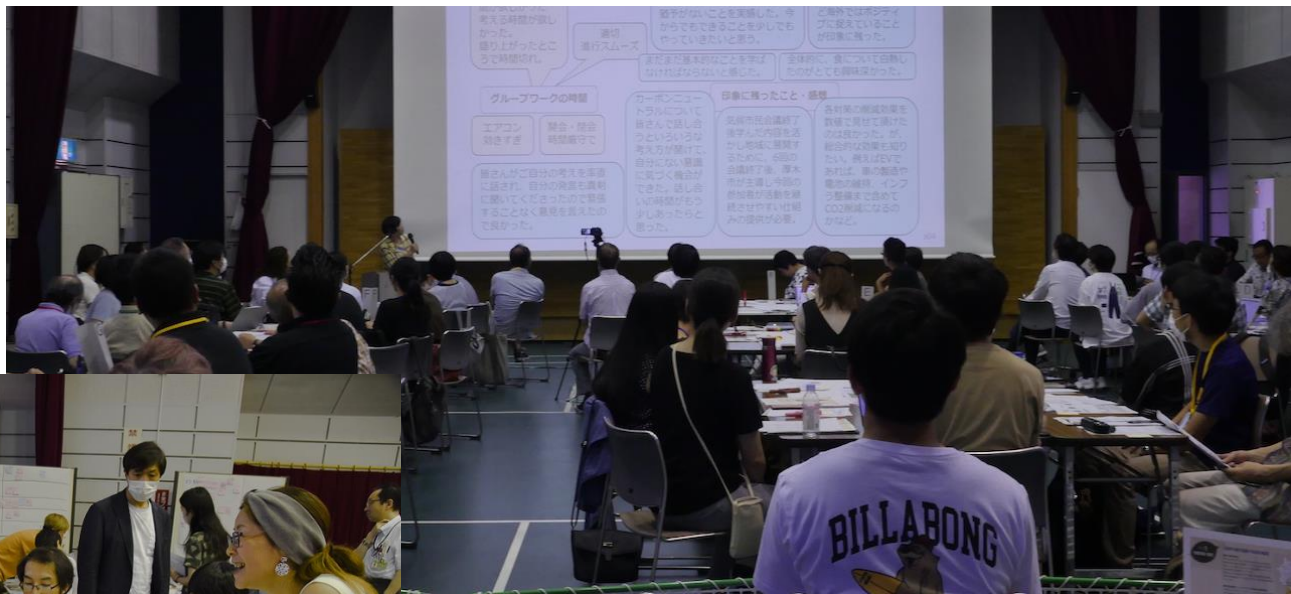
アクションプラン原案②

全体会での相互理解

再討議の必要な項目提案

脱炭素アクションプラン原案完成

マイアクションプラン



第1回会議2023.06.18

あつぎ気候市民会議 終了 2023年11月26日



5つの章 合計74項目のアクションプランを記載

第1章 再生可能エネルギーの 地産地消

第2章 移動・まちづくり

第3章 省エネ・住まい

第4章 消費・食・農・廃棄

第5章 「脱炭素市民アクション プラン in あつぎ」を具体 化、実践、定着していく ための取り組み



イラスト制作：参加市民の菊地栞さん

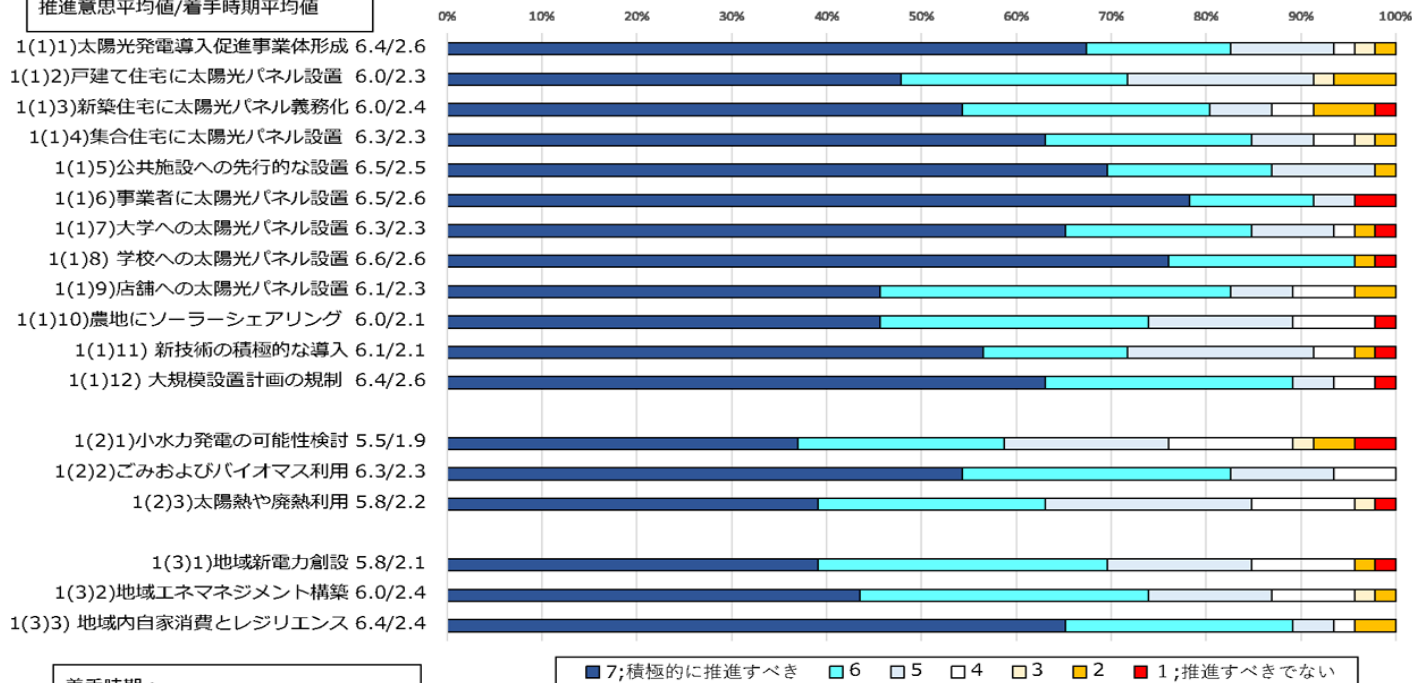
第1章 再生可能エネルギーの地産地消 推進意思のグラフ

あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 最終案に対する投票結果

投票結果；推進したい人が
半分以下の項目は除外する

アクションプラン項目名
推進意思平均値/着手時期平均値

第1章 再生可能エネルギーの地産地消



着手時期；
2025年まで3点、2030年まで2点、
2030年以降1点、着手しない0点

(1)太陽光発電を中心とした再エネの導入

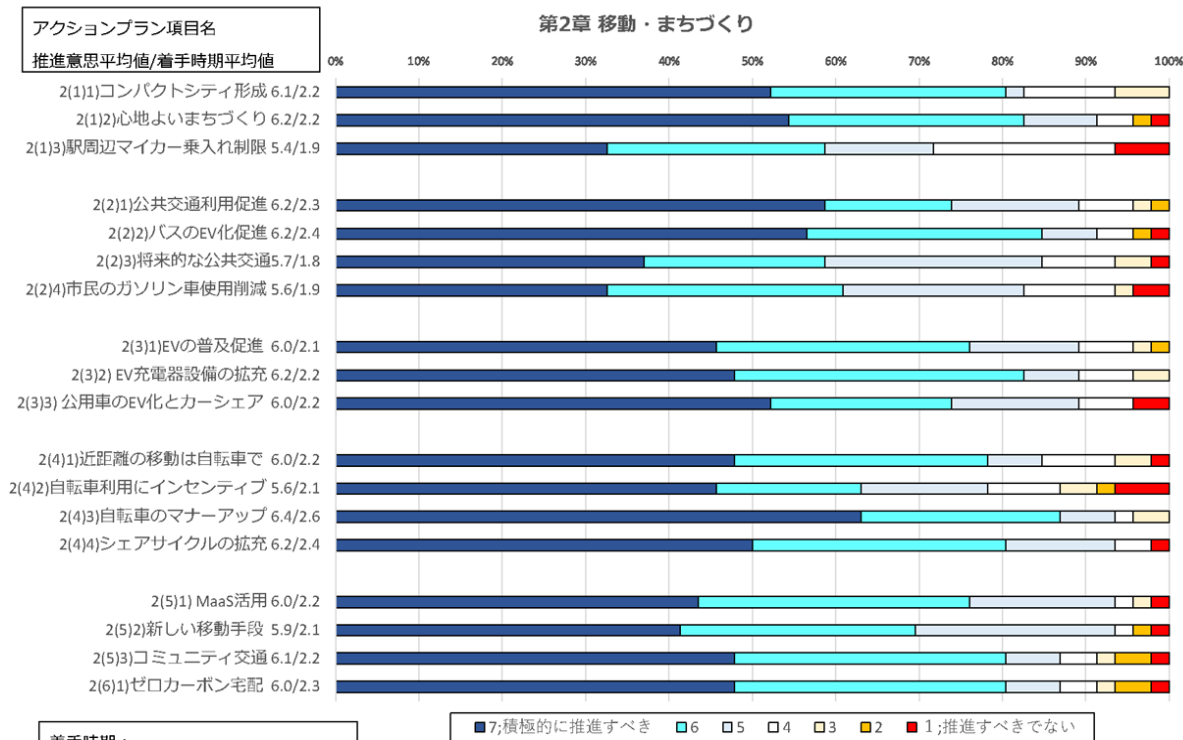
厚木市民は再エネ発電を2019年（44MW）比2030年までに3.7倍（160MW）、2050年までに9倍（400MW）に増やすために、太陽光発電を中心に可能なすべてのところに設置する。

(2)多様な再エネ導入、熱利用

(3)再エネの地産地消実現と地域エネルギーマネジメントシステム構築

第2章 移動・まちづくり 推進意思のグラフ

あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 最終案に対する投票結果



着手時期;

2025年まで3点、2030年まで2点、
2030年以降1点、着手しない0点

(1)コンパクトシティの形成

日常生活は歩いて暮らせるコンパクトシティを作る。必要な機能や施設が揃い住む人の交流ができる暮らしやすいまちにする。ただしコンパクトプラスネットワークの市の施策について、市は市民と課題を共有し、市民と共にまちづくりを進めるよう市に求めていく。

(2)公共交通を充実し、自家用車に頼らないまち

(3)電気自動車EVの普及

(4)自転車を利用しやすいまち

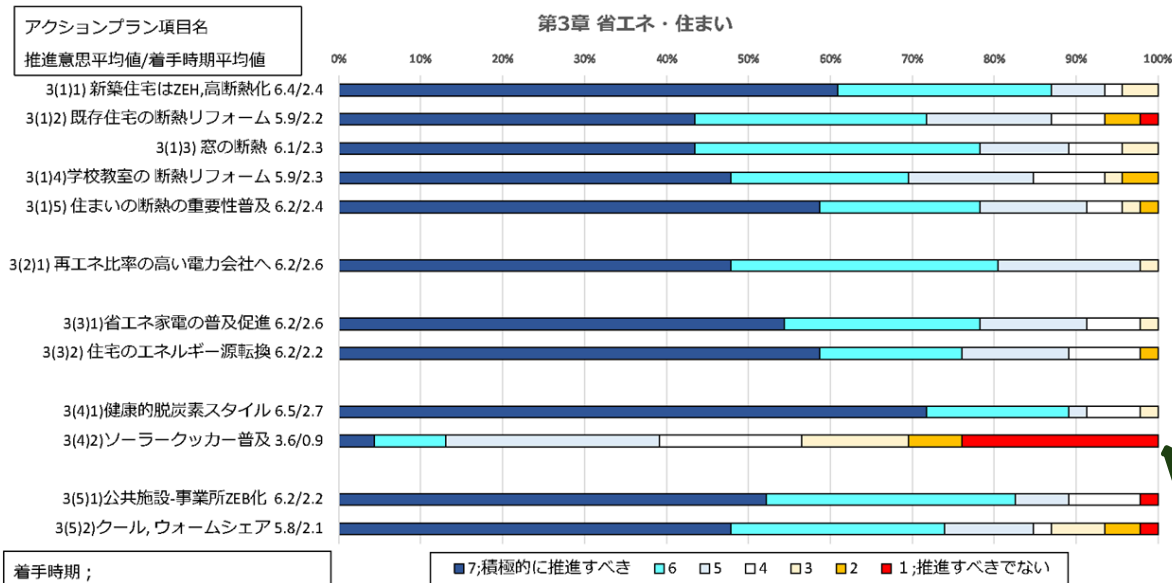
(5)新しい移動手段やサービスの導入

新しい移動手段やMaaSを活用して快適なまちをつくる。市民は実施主体となる市や事業者と協議体を作り地域のニーズが反映できるように参画する。

(6)ゼロカーボン宅配サービスの利用

第3章 省エネ・住まい 推進意思のグラフ

あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 最終案に対する投票結果



着手時期；
2025年まで3点、2030年まで2点、
2030年以降1点、着手しない0点

(1)住まいの断熱による省エネと健康の増進

2)市民は自宅の壁・窓の断熱性能を測定するなど、既存住宅の断熱リフォームをなるべく早く行う。専門家に相談できる公的な窓口の設置を市に求める。

(2)家庭で購入している電気を再エネの電源構成比率の高い電気に切り替える

(3)家庭での脱炭素ライフスタイルの実践

(4)公共施設の省エネと活用

投票結果；推進したい人が
半分以下の項目は除外する
(1項目該当)

3(4)2)ソーラークッカー普及はアクションプランから除外

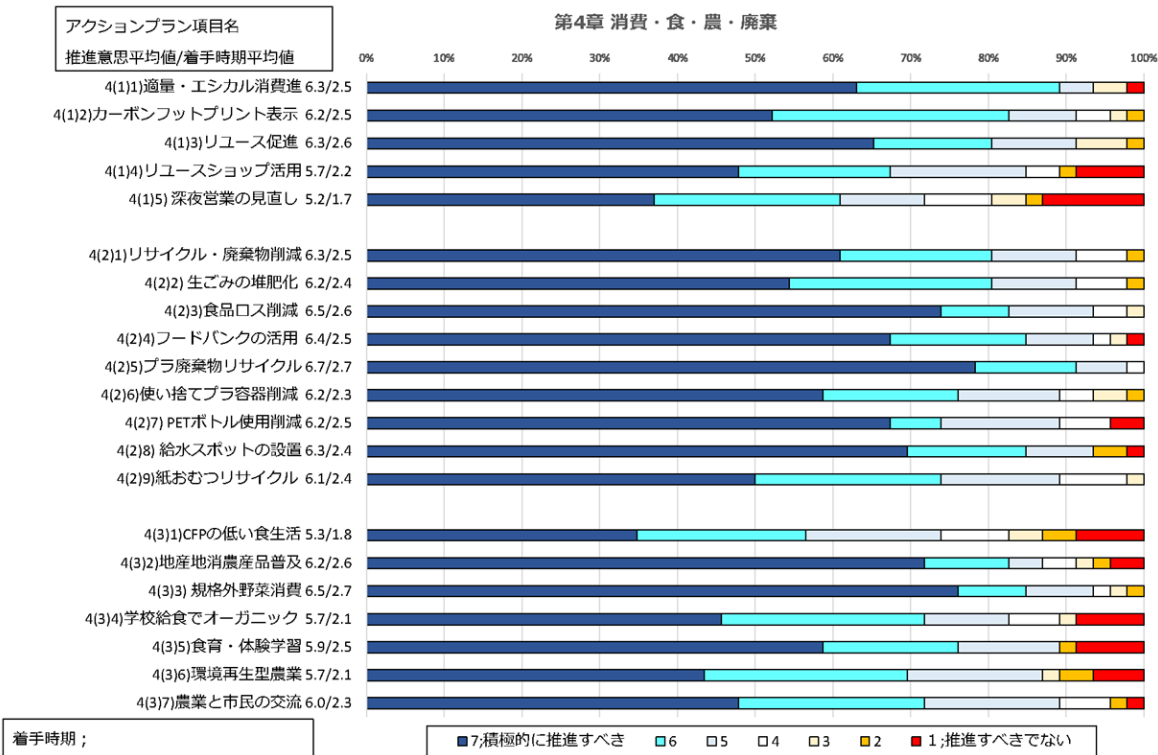
【脱炭素市民アクションプラン in あつぎへの変更】

3(3)を「家庭での省エネ家電、太陽熱利用機器選択」から「家庭での脱炭素ライフスタイルの実践」と変更し、3(4)1)を3(3)3)として統合した。

3(5)は(4)に繰り上げた。

第4章 消費・食・農・廃棄 推進意思のグラフ

あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 最終案に対する投票結果



着手時期；
2025年まで3点、2030年まで2点、
2030年以降1点、着手しない0点

(1)大量生産・大量消費の見直し、価値観の転換

(2)廃棄物を減らし、資源循環を進める

(3)健康を支える食と農業

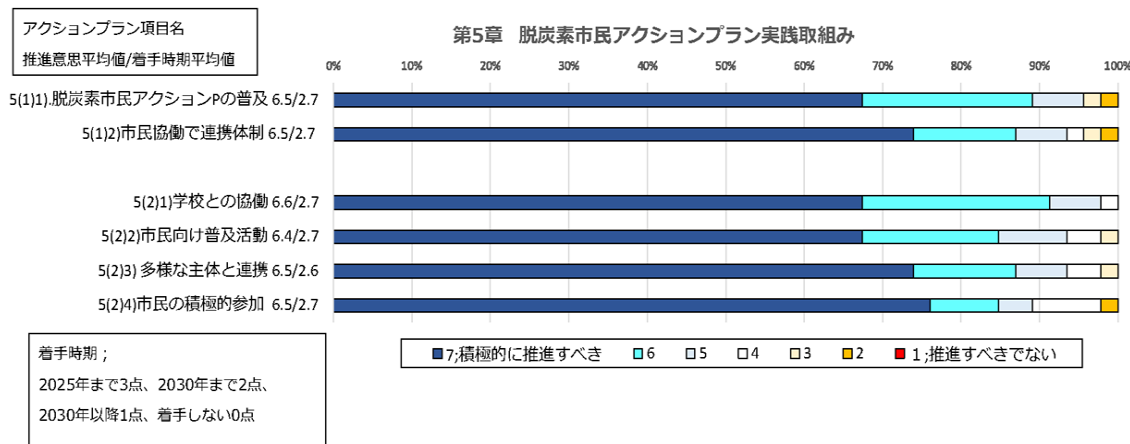
2)地産地消農産物の普及 市民は地産地消の農産物を買う機会を増やし、地産地消農産物の普及をさせる。

3)規格外野菜の消費

4)学校給食等で地場産のオーガニック食材活用 市民は学校や老人ホームなどの給食を地場産のオーガニック食材にするよう関係者に働きかける。

第5章 「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」を 具体化、実践、定着していくための取組み 推進意思のグラフ

あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 最終案に対する投票結果



(1)市民協働の継続

1)脱炭素アクションプランの普及

2)市民協働の連携体制構築

市民は市民協働を継続し脱炭素市民アクションプランの実践に取り組む。市民と市の連携体を作り、協働によりカーボンニュートラル実現を早く確実に達成することを目指す。

(2)市内関係者との連携

1)学校との協働

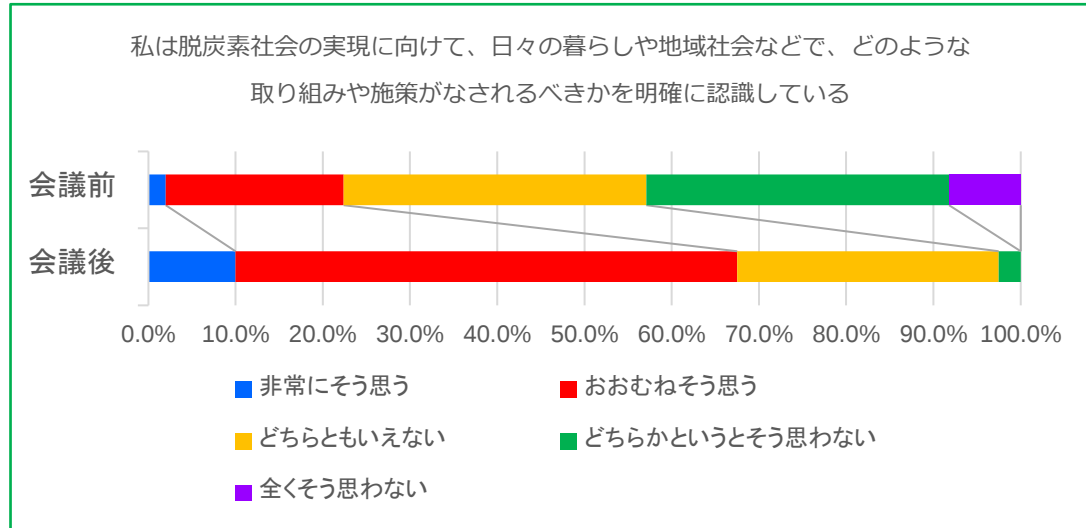
2)市民向け普及活動

3)多様な主体との連携

4)市民の積極的な参加

2023年度末
カーボンニュートラルあつぎ未来プロジェクト設立
(2024年度厚木市市民協働提案事業)

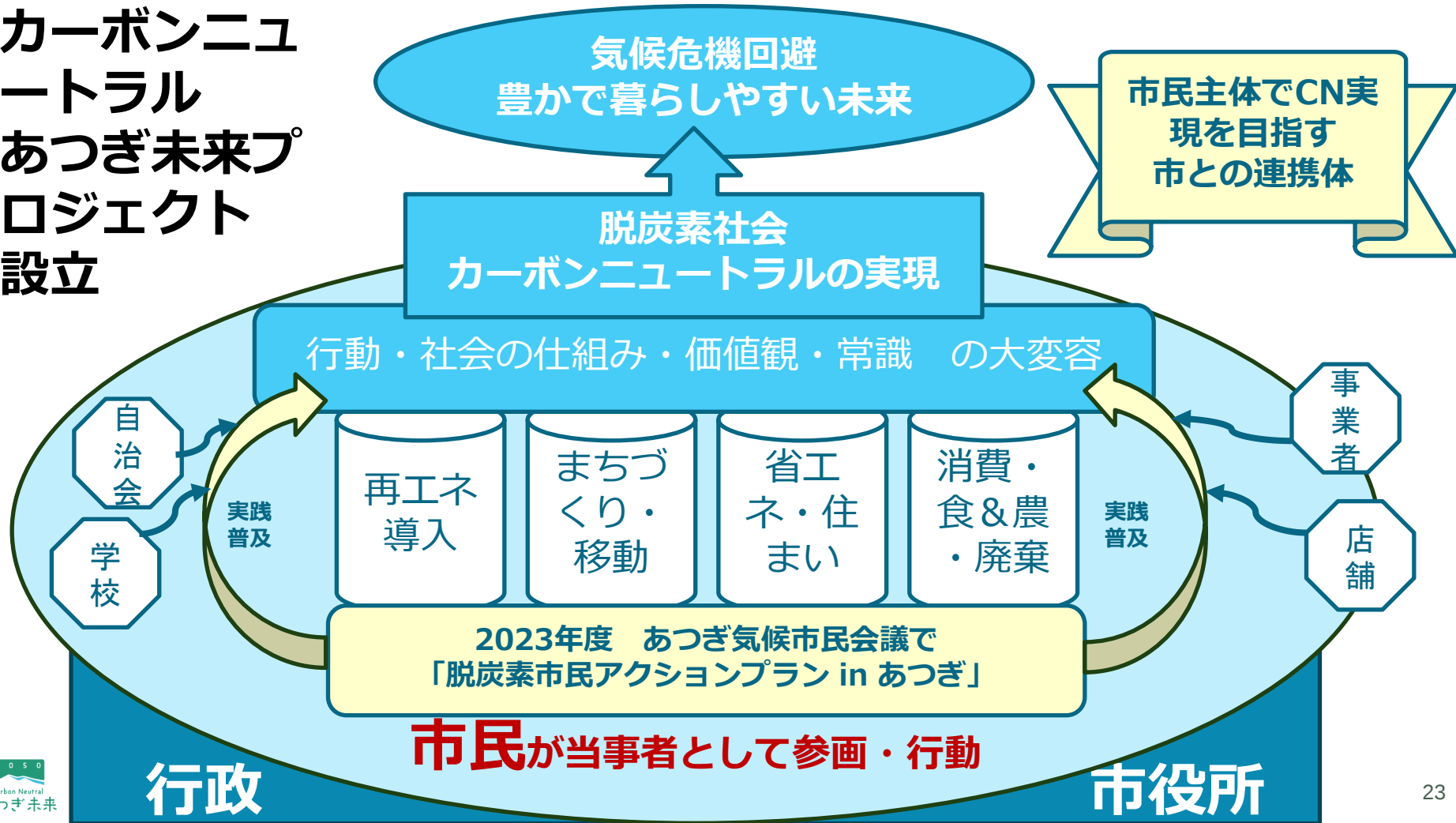
	市民会 議に参 加して よかった	市民提 案内容 満足度	アクシ ョン取 組活動 への参 加
非常に/ 参加したい	60%	15%	53%
概ね	35%	75%	—
どちらとも いえない	2%	7%	45%
思わない/ 参加しない	3%	3%	2%



【実行委員会・統括チーム反省点の一部】

- ◆ 熟議に至っていない グループ討議の時間不足、ファシリテーション課題・スキル
- ◆ 情報提供は質・量ともに適切であったか グループ討議への影響大 時間圧縮
- ◆ グループ討議内容の共有化から最終アクションプラン案作成までのプロセス
- ◆ 実行委員会の運営上の課題

カーボンニュートラル あつぎ未来プロジェクト 設立



組織と開始時メンバー 2024年6月1日現在

各スタッフ
大募集中

運営サポーター
5名

(市民会議スタッフ4
名+参加市民1名)

個別プロ
ジェ
クト

個別プロ
ジェ
クト

個別プロ
ジェ
クト

個別プロ
ジェ
クト

運営委員会

9名
(市民会議スタッフ
5名
+参加市民3名
+新メンバー1名)

情報管理プラ
ットフォーム運
営チーム

広報チーム

統括事務局

遠藤睦子、鷺谷雅敏、鈴木秀顕

個別プロジェクト
いつでも募集中

賛同する市民・市
民活動団体は**会員登録を**

⇒連絡、情報共有、
交流イベント案内

個別プロジェクト
への参加を！

個別プロジェクト (2024年6月10日現在)

プロジェクト名	申請者	内容概略
アクションプラン普及啓発	運営委員会	市民への普及 報告書・パンフ配布、公民館単位の説明会、子ども向けWS 11月10日講演と交流のイベント(江守正多氏) 学校教育の現場への取組み企画など 個別プロジェクトで事業者との協働取組みが必要な時の橋渡し
学生の脱炭素活動チーム支援	A	アクションプラン始動する学生チーム編成支援、交流拡大
保育園 環境教育	B	保育園児の気候変動への関心・じぶんごと化;脱炭素あつぎイラスト活用
農産物の地産地消推進	C(地域朝市実践者)	農産物地産地消で脱炭素、地域活性化、農副連携・食農教育
あつぎ地産地消・オーガニック給食	D,E	脱炭素につながる農産物の地産地消、学校給食への採り入れを目指す普及啓発活動で、食・農を大切にする価値観の醸成
再エネ導入促進、エネルギー地産地消、地域エネマネ構築	F,G	再エネ導入ロードマップ目標値を達成させる。エネルギー地産地消、地域内マネジメントに必要な道筋の学習など。具体的な事例で設備導入。
既存住宅断熱リフォーム推進	H	自宅で実施、断熱効果計測、効果の広報と補助金活用アドバイスで普及拡大
教室の断熱改修ワークショップ	未定	学校の教室で断熱リフォームをDIYで行うことで酷い環境の改善・省エネ効果と環境教育

あつぎ気候市民会議 収支

(2023年2月～2024年3月)

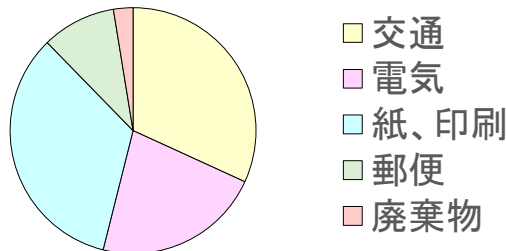
CO ₂ 排出量試算暫定値トンCO ₂ 相当 (by 実行委員会自主算定)		
スタッフ 会議参加 交通		0.54
参加市民 交通		0.42
講師・アドバイザー 交通		0.33
環境政策課 交通		0.02
傍聴者 交通		0.16
スタッフオンラインMTG 電気		0.69
会場会議室 電気・ガス		0.32
印刷物 コピー用紙		0.67
印刷物 印刷費		0.21
事務用品		0.67
郵送料		0.45
廃棄物 (一般、廃プラ、紙リサイクル)		0.19
合計		4.6

収入	金額
厚木市	2,000千円
ラッシュジャパン	1,999千円
地球環境基金 (助成上限250万円)	2,081千円
自己資金	27千円
合計	6,107千円

支出	金額
謝金(講師)	1,003千円
謝礼(参加市民)	781千円
報酬(スタッフ)	2,469千円
人件費	476千円
消耗品費	208千円
印刷製本費	560千円
使用料	75千円
通信・郵送費	431千円
食糧費	26千円
保険料	77千円
合計	6,107千円

あつぎ気候市民会議によるCO₂排出量 (試算暫定)

総量 4.6トン-CO₂相当



環境政策対話研究所および厚木市から収支金額には表れないが、会議の根幹を支える支援を頂いた



市民レベルの無謀なチャレンジでしたが
多くの皆さまのご支援とご指導をいただき
なんとか1つの成果に到達できました。
深く感謝いたします。

次に向けて新たなつながりを紡ぎながら
前途多難ですがさらなるチャレンジを！

ご清聴ありがとうございました

